

耐震構法 SE構法

Ver. 2 取扱説明書
《基礎施工編》



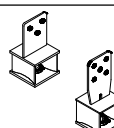
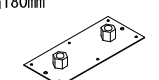
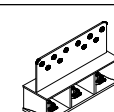
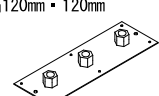
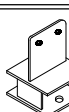
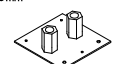
【東京本社】
〒108-0075
東京都港区港南1-7-18
Tel 03-6872-5601 Fax 03-6872-5611

【大阪支店】
〒530-0002
大阪市北区曽根崎新地1-1-49 梅田滋賀ビル8F
Tel 06-6344-0588 Fax 06-6344-0733

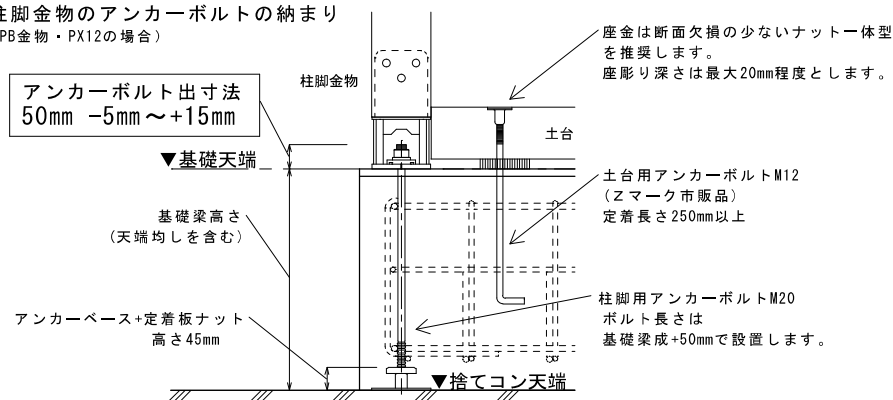
1 柱脚金物用アンカーボルト

□柱脚金物の種類

基礎に直接アンカーボルトで固定するタイプの柱脚金物は、**SE構法の施工上最も重要な部分**です。
配置位置・高さはコンクリートの打設前に十分確認し、位置ずれを起こさないよう補強を行ってください。
柱脚金物用アンカーボルトは、「**アンカー伏図・柱脚金物伏図**」に基づいて施工を行うこと。

金物名称	アンカーボルト	アンカーベース	平面許容誤差
PB12 PX12 	M20 1本		±10mm
PB24 	M20 2本	ボルト間隔120mm 	
PB30 	M20 2本	ボルト間隔180mm 	
PB36 	M20 3本	ボルト間隔120mm・120mm 	
PH17 	M16 2本	ボルト間隔100mm 	±5mm

□柱脚金物のアンカーボルトの納まり (PB金物・PX12の場合)



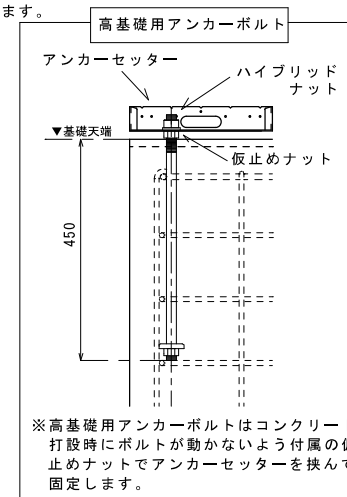
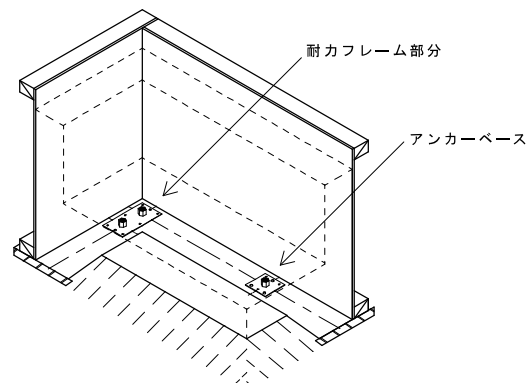
2 アンカーベースの施工方法

□アンカーベースとは

アンカーボルトを精度よく確実に固定するための治具として、アンカーベースを使用します。
アンカーボルトを鉄筋より先行して立てる事により、干渉を避けながら配筋する事が可能です。
アンカーベースとアンカーセッターを併用することにより、上下で位置を確認できます。
※高基礎・深基礎などで、アンカーボルトの長さが1200mm以上の場合は、アンカーベースを使用せず、**高基礎用アンカーボルト**をご利用ください。

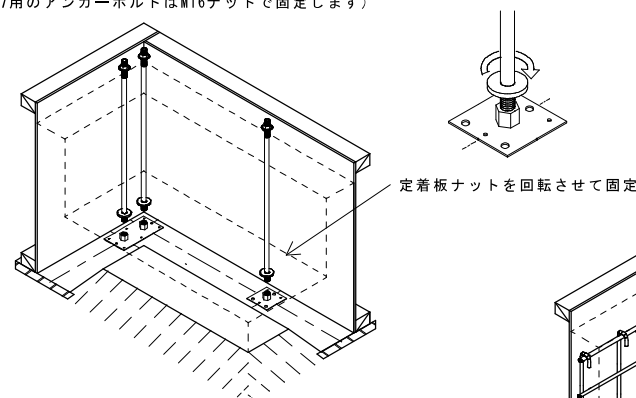
①アンカーベースの設置

捨てコンに芯墨を打ち、柱脚金物を設置する位置にアンカーベースを設置します。
捨てコンのレベルは±10mm以内として下さい。
アンカーベースは、接着剤・コンクリート釘・ホールインアンカー等で固定します。
アンカーベースができるだけ水平になるよう固定してください。
合わせ柱の場合は、アンカーベースを隙間なく2個並べて使用します。



②アンカーボルトの設置

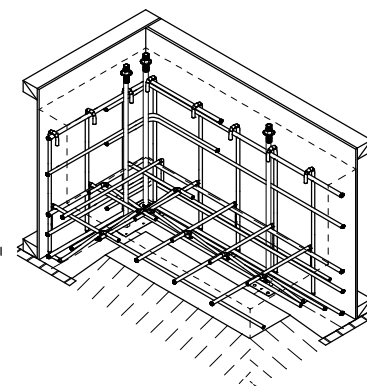
PB金物用のM20アンカーボルトには定着板が取り付けられた状態で納品されます。
定着板ナットが付いたままアンカーベースにボルトを垂直にねじ込みます。
水系(レベル)などを用いてアンカーボルトの設置高さを確実に確認してください。
定着板ナットを回転させ、アンカーボルトをベースに固定します。
(PH17用のアンカーボルトはM16ナットで固定します)

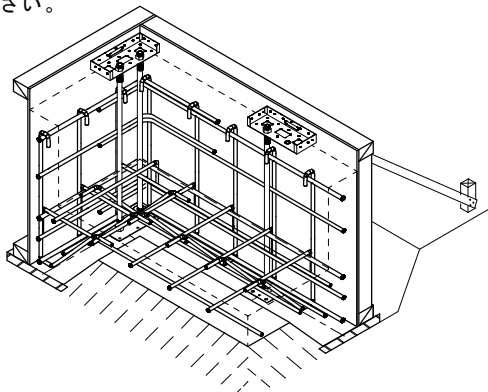
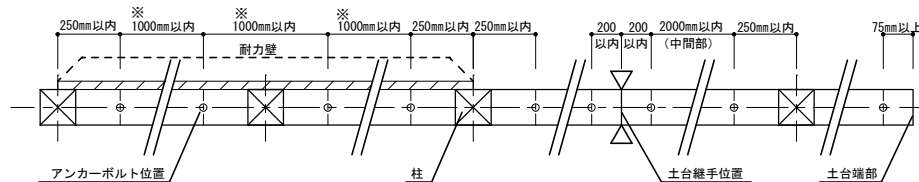
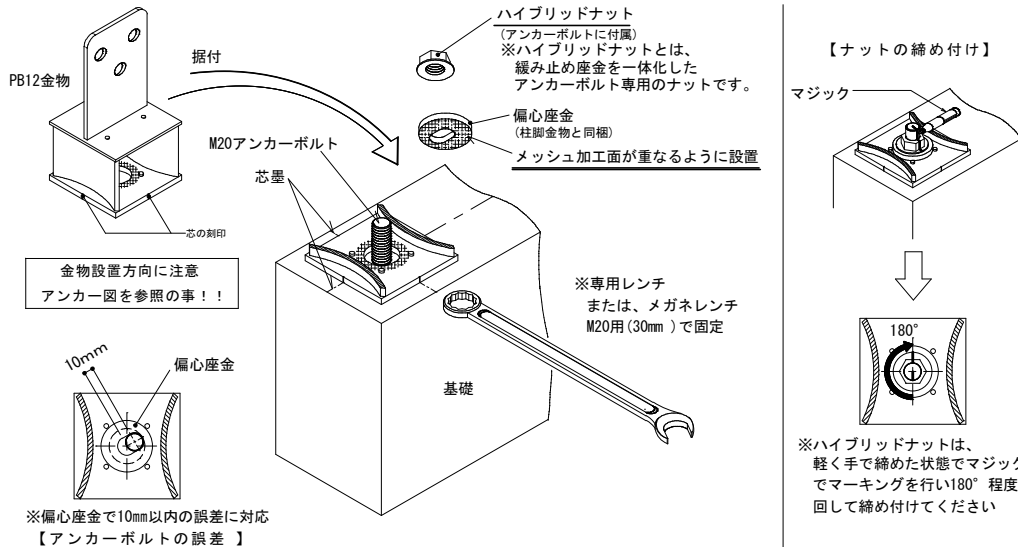
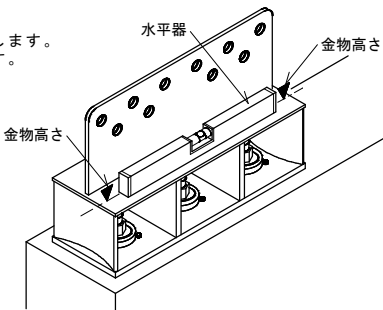


③基礎の配筋

アンカーボルトをかわしながら、鉄筋を組み立てます。
鉄筋の施工状況により、アンカーボルトを先に立てられない場合は鉄筋の組み立て後にアンカーボルトを設置します。
コーナー部分は、鉄筋とアンカーボルトが干渉しやすく、アンカーボルトの位置ずれが生じやすいため十分ご注意ください。

※定着板ナットは、最下段の鉄筋の下に配置してください。



3	アンカーセッターの取り付け □アンカーセッターはPB12用・平角柱兼用とPH17用があります PB30・36の場合は「平角柱兼用」をご利用ください。 固定方法は以下の通りです。 鋼製型枠の場合：クランプで型枠に挟んで固定 木製型枠の場合：ビスで型枠に直接固定 ※クランプは別途ご用意頂く必要があります。 ＜注意事項＞ アンカーセッターは型枠に固定するため型枠の位置精度が重要となります。 コンクリート打設時に型枠が移動しないよう十分な型枠の補強を行ってください。 アンカーセッターの設置時にアンカーボルトの設置高さを再度ご確認ください。 ※アンカーボルトの設置位置は、水系を張るなどして最終確認を行った後、コンクリートを打設してください。 									
4	アンカーボルトの位置ずれの対処 施工時、やむを得ずアンカーボルトがずれた場合には、下記の方法にて対応してください。 □PB金物の場合 (PB12・PX12・PB24・PB30・PB36) ①平面位置10mm以内のずれの場合 → 金物に付属する偏心座金で対応 ②平面位置10mmを超え15mm以内の場合 → NCNが供給する補正座金を使用し現場で是正処置 ③平面位置15mmを超えるずれ → NCNへ連絡し、対処方法を相談 ※是正処置は、補正座金の取り扱い説明書・SE構法マニュアルに従って施工する事。 ※平面位置15mmを超えるずれの場合、状況により基礎の再施工となる可能性があります。 □PH17の場合 ①平面位置5mm以内のずれの場合 → 金物に付属する偏心座金で対応 ②平面位置5mmを超え15mm以内の場合 → NCNが供給する座金を使用し現場で是正処置 ③平面位置15mmを超えるずれ → NCNへ連絡し、対処方法を相談 ※是正処置は、SE構法マニュアルに従って施工する事。 ※平面位置15mmを超えるずれの場合、状況により基礎の再施工となる可能性があります。 ⚠ <u>規定以外の方法で是正を行った場合、SE構法の構造性能を保証できません。</u>									
5	土台用アンカーボルトの配置 □土台用アンカーボルトは、NCNが発行する「アンカー伏図」に基づいて施工してください。 ・アンカーボルトは、M12定着長さ250mm以上（フック又はカサ付）を使用すること。（Zマーク金物） ・土台用アンカーボルトは耐力壁周りに配置しますが、特に耐力壁端部のアンカーボルトは重要です。 ・高耐力壁の端部の柱からは、両端250mm以内にアンカーボルトを配置してください。 ※NCNで基礎計算を行わない場合は、別途施工図を作成してください 高耐力壁の場合 ※一般耐力壁、中間部は2000mm以内とする 									
6	柱脚金物の取り付け (PB金物の場合) □柱脚金物の取付けは以下の手順で行います ①基礎の天端のレベルの確認・調整を行う。金物直下の基礎天端は、できるだけ平滑にする事。 ②土台・柱脚金物設置用の墨出しを行う。 ③アンカーボルトの寸出法 (50mm -5mm~+15mm)を確認。70mm以上では金物と干渉するおそれがあります。 ④アンカーボルトの芯ズレ (±10mm以内)を確認。誤差±10mm以内は偏心座金で対応可能。 ※補正可能な最大許容誤差±15mmを超える場合は台直し等の対処が必要。 ⑤柱脚金物の配置向きの確認 【重要】 アンカー図・柱脚金物配置図で金物の設置方向を確認してください。 ⑥柱脚金物を設置し、偏心座金とハイブリッドナットで固定する。 ハイブリッドナットは、軽く手で締めた状態でマジックでマーキングを行い、180°程度回して締め付けてください。  △▲注意事項▲△ ・寸出法が70mmを超えて大きい場合、あらかじめ余長をカットする必要があります。 ・ナットの固定は、NCNが販売する専用レンチまたは、メガネレンチ30mmを使用してください。									
7	平角柱用柱脚金物の設置の注意事項 □柱脚金物は、以下の点に注意して設置を行って下さい。 ①特に平角柱は、柱脚金物の設置の精度が建て方の鉛直精度に大きく影響します。 柱脚金物は剛性が高いため、柱を立てた後の建て起しの調整は困難です。 ②金物の設置高さは、金物の両端2ヶ所以上の位置でご確認下さい。 ③金物を設置した際に、必ず水平器を用いて水平精度をご確認ください。 ④アンカーボルトの設置・誤差の対処方法は、前記方法による。 □平角柱用柱脚金物 <table><tr><td>120×240</td><td>：</td><td>P B 2 4</td></tr><tr><td>120×300</td><td>：</td><td>P B 3 0</td></tr><tr><td>120×360</td><td>：</td><td>P B 3 6</td></tr></table>  基礎施工の標準的な作業は本取扱説明書の通りとし、規定外の施工、または補修を行う場合は、NCNにご相談ください。	120×240	：	P B 2 4	120×300	：	P B 3 0	120×360	：	P B 3 6
120×240	：	P B 2 4								
120×300	：	P B 3 0								
120×360	：	P B 3 6								